



平成30年度機械知能システム理工学科教育貢献賞受賞

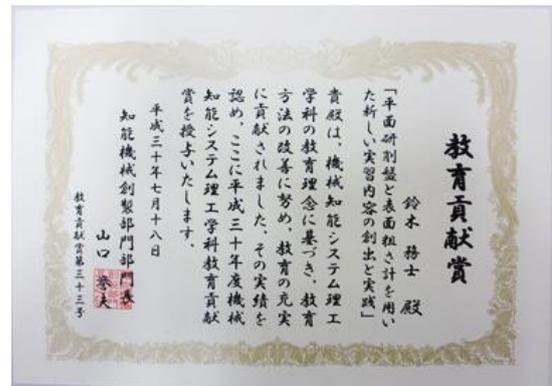
機械センター部門の鈴木務士氏が「平成30年度機械知能システム理工学科教育貢献賞」を受賞した。受賞内容は「平面研削盤と表面粗さ計を用いた新しい実習内容の創出と実践」である。

機械知能システム工作実習 I, II において、これまで実施してきた実習内容を見直すことになり、塑性加工、熱処理に代わる新たなテーマとして、平面研削盤と表面粗さ計を用いた実習内容を川島久宣准教授とともに立案、計画した。これまでの実習では触れられてこなかった表面状態の評価に注目し、接触型表面粗さ試験器を用いた計測を実施することで幾何公差に関する理解を深めるものである。

実習を行うためのテキスト作成の際にも大いに尽力し、

機械知能システム理工学科に対する功績が認められた。今後のさらなる活躍に期待する。

(文責：機械センター部門技術長 川島)



技術環境整備グループ活動 ～ドラフト修理について～

技術環境整備グループは、理工学部のよりよい環境作りを目的に設けられたグループであり、大学内の安全対策、環境対策などを担当しています。主な業務としては、薬品庫や棚等の耐震固定作業、大学内の防犯カメラの設置、局所排気装置の点検作業などを行っています。その中でも最近依頼の多いドラフトの修理について報告させていただきます。

ドラフトの故障といっても、様々な状況があります。ガラス扉を上下させるための重りがついたワイヤーが切れてしまった、ガラス扉が動かない、電源をONにしても全然吸い込まないなど現象は様々です。修理の中で一番多い案件が、ワイヤーが切れてしまうことです。ワイヤーも消耗品のため上下することによって磨耗し、経年劣化により切れてしまうことが多々あります。その場合は、ワイ

ヤーの交換作業を行っています。

ドラフトが一番多く設置されている化学系の棟では、ほとんどのドラフトが同じ時期に設置されています。そのため、設置から何十年か経った今がワイヤーの切れる時期なのかもしれません。ワイヤーの寿命を延ばすためには丁寧に使用してもらうことが一番大切ですが、もし切れてしまった場合、そのままドラフトのガラス扉を開いたまま使用することは大変危険であり、大事故につながる可能性があるため、ワイヤーが切れた場合は早急に近くの技術職員または技術相談窓口 (https://www.tsk.st.gunma-u.ac.jp/Local/Tech_soudan.html) へ連絡いただきますようお願いいたします。

(文責：技術環境整備グループ長 齋藤)



ワイヤー劣化の様子



狭い空間でのワイヤー交換作業

「2018 ぐんだいで遊ぼう！ものづくり体験・おもしろ探検」報告

ぐんだいで遊ぼう実行委員会では技術職員の業務で得た技術と知識を活かし、地域の子供たちに科学への興味と楽しさと身近な大学を知ってもらう事を目的として2018 ぐんだいで遊ぼう！「ものづくり体験・おもしろ探検」を平成30年7月29日（日）に開催した。今年度は、6テーマのうち、テーマ①と⑥を更新、開催日を日曜日に変更、Web申し込みの導入などの改善を行った。

内容は、①野菜からDNAを取り出してみよう！②たまねぎで染めよう！③ホバークラフトをつくろう④電波で動くコヒーラ・カーを作ろう⑤パソコンの分解と組み立て体験⑥ふりふりホテルの6テーマで実施した。

募集要項とポスターの配布は、桐生市、みどり市の教育委員会を通して配布した。今年度の応募は昨年と比べて微増の100名であった。微増となった要因は、昨年度の保護者アンケートより7月末の土日の開催希望が多かったため、日曜開催としたこと、体験イベント in 大学のホームページ⁽¹⁾と上毛新聞アミーゴのイベント情報に掲載したことが考えられる。応募者は、みどり市、桐生市を中心に前橋市、伊勢崎市、太田市、館林市、安中市、渋川市、邑楽町、県外から足利市、さいたま市から応募があった。抽選により85名が当選したが、当日の悪天候、欠席等により、71名での実施となった。



参加者と保護者にそれぞれ行ったアンケートを集計した結果、参加者および保護者共にイベントを楽しめたようである。内容についても好評であった。今後はアンケート結果を参考にし、テーマの改変、内容を検討し、より良いイベントになるように計画して行きたい。

ぐんだいで遊ぼう実行委員会は企画から募集、会場設定、教育委員会との交渉など、イベントがスムーズに実施できるように年度初めより準備を進めてきた。また、技術職員全員の協力なくしては成立しないイベントであり、協力していただいた技術職員の皆様には感謝している。

このイベントを実行するにあたり、共同開催の独立行政法人国立赤城青少年交流の家には予算執行の全面委託、司会と子供向け親睦タイム（アイスブレイク）など多岐に渡りサポートしていただいた。大学事務、国立赤城青少年交流の家などの協力により、無事終了できたことを感謝する。

(文責：ぐんだいで遊ぼう実行委員長 近藤)

(1) JS日本の学校 “体験イベント in 大学”。

<http://school.js88.com/> (最終閲覧日：2019年1月23日)



平成30年度 技術部ニューフェイス紹介



鈴木 美和
機器分析部門

技術職員として母校に貢献できることを嬉しく思います。
よろしくお願いたします。

(平成30年10月1日 採用)



技術職員紹介ページを作成しました（学内公開）

各技術職員の主な業務内容・業務に関するキーワードを紹介しています。

技術職員紹介ページ <https://www.tsk.st.guruma-u.ac.jp/Local/staff-prof.html>